

# 『この国どんな国？』

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。



今回ご紹介する国は  
「カタール」

第4号(2008年4月24日)



## カタールの基本情報

カタールは、アラビア半島東部に位置するペルシャ湾に面した小さな半島の国で、南はサウジアラビアと国境を接し、北はバーレーンに面しています。国土の総面積は約11,521平方キロメートルで、日本の秋田県ほどの大きさです。国土の大部分は平坦な荒野ですが、北東部には丘陵地帯や砂丘が広がっています。北中部は最も肥沃な土地で、多くの植物が育っています。夏は非常に高温、冬は温暖な砂漠気候であり、年平均降水量も70mmと非常に少ないです。

カタールの人口は約74万人で、その83%が首都ドーハと郊外のアルラヤンに住んでいます。カタールはシェイク・ハマド・ビン・ハリーファ・アール・サーニ首長のリーダーシップのもとここ数年で大きく近代化が進みました。これまで同国の経済は石油・天然ガス収入に大きく依存してきましたが、現在は石油・天然ガス依存型経済からの脱却のため非資源産業の育成を積極的に行っています。

- 首都: ドーハ
- 面積: 約11,521平方キロメートル
- 人口: 約74万4千人(2005年)
- 言語: アラビア語。英語も幅広く通用する。
- 宗教: イスラム教
- 一人あたりGDP: 62,914USドル(2006年)
- GDP成長率: 14.1%(2008年予想)



## 大使館情報

**所在地:** 東京都港区元麻布2丁目3番28号  
\* 東京メトロ日比谷線、広尾駅から有栖川宮記念公園を右手に見ながら歩いて10分程のところにあります。高級住宅街の一角に位置し、周辺は各国の大使館が立ち並ぶ地域であるため、外国人の姿が多く見られました。

**面会者:** 駐日カタール大使館 広報担当者

今回お話を伺ったのは、カタール大使館の広報担当の方です。  
今回の訪問では大変お忙しい中、我々のインタビューに応じて下さりました。  
(2007年12月26日に訪問)



有栖川宮記念公園



広尾の高級マンション

出所: IMF、外務省、Qatar Year Book 2006

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

# 『この国どんな国？』



今回ご紹介する国は  
「カタール」

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。



## 好調なカタール経済を支える原油・ガス産業

カタールは2004年以降年率20%以上の急速な経済成長を続けており、2008年も引き続き高い成長が見込まれています。この高成長を支えるのは主に原油・天然ガス産業ですが、経済多角化のため現在非資源産業の育成を積極的に行っています。

### 1. 原油・天然ガス産業

カタールは年間3千万トン以上の生産能力を持つ、液化天然ガス(LNG)の世界最大の輸出国です。日本にも天然ガスを輸出しており、2007年末には世界最大のLNG輸送船が日本に就航しました。これにより現在は年間約6百万トンの対日LNG輸出量が、2008年には8百万トンを超える見込みです。1971年にカタールで発見されたノースフィールドガス田は世界最大級のガス田であり、確認埋蔵量は910兆立方フィート(約1,640億バレルの原油に相当)、可採年数は約200年とされています。

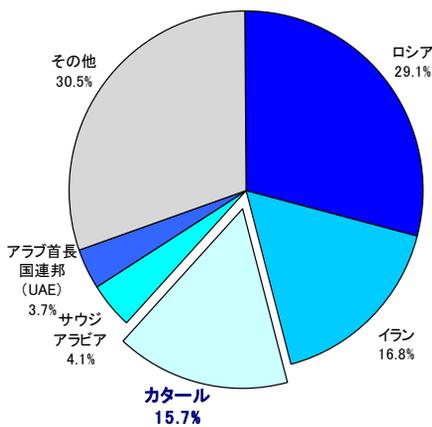
一方原油は日産約80万バレルを生産しており、2006年末時点の確認埋蔵量は、約260億バレル(世界シェア1.15%)となっています。カタールの原油・天然ガス産業は主に国営のカタール石油会社によって管理、運営されており、原油・天然ガスの生産、輸送から新たな油田の調査、開発に至るまでを一手に行っています。

カタール石油会社の5ヵ年計画では、2010年までに原油、天然ガスの生産量はさらに増加する見込みです。



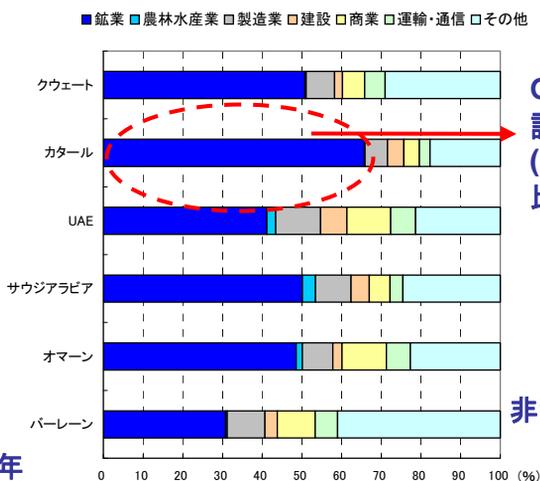
出所:カタール外務省、毎日デリーニュース

### 世界第3位の天然ガス埋蔵量



可採年数は約200年

### GDPの業種別構成比(2006年)



GCC(湾岸協力会議)諸国の中でも特に鉱業(原油・天然ガス等)の比率が高い。



非資源産業の育成を推進

出所:国連、オイル・アンド・ガスジャーナル誌(2006年)

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

# 『この国どんな国？』



今回ご紹介する国は  
「カタール」

各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。



## 積極的な非資源産業の育成

### 2. 金融

カタール政府は今後5年間で1,300億ドルを投じて液化天然ガス(LNG)をベースとした新たな産業基盤作りを行う予定です。

この巨大プロジェクトの資金調達を目的に2005年5月に設立されたのがQFC(カタール金融センター)です。QFCでは海外の金融機関や多国籍企業を誘致し、これらの企業にプロジェクト金融など様々な投資機会を提供しています。

カタール金融センターは金融サービスのための世界水準のビジネス環境を兼ね備えており、また国際的な法体系やビジネスインフラも整備されています。

海外の金融機関を誘致するための優遇策もあります。QFCに進出した金融機関は3年間無税であり、さらに4年目からも低率の優遇税制が適用されます。

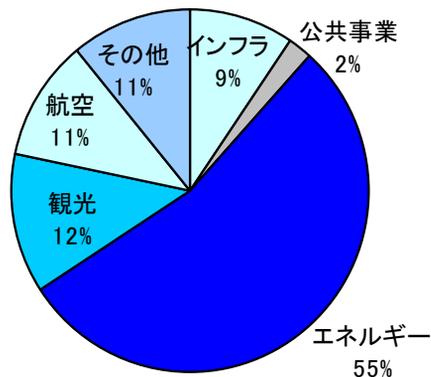
またQFCでは外資100%企業も受け入れます。

これらはGCC6カ国の中でもユニークな取り組みと言えます。

既にアラブヨルダン投資銀行、クレディ・スイス・ファイナンシャル・サービス、ドイツ銀行など世界各国33の金融機関がQFCへの進出を果たしています。



1,300億ドルの内訳



出所:カタール金融センター-QFC

本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



## 『この国どんな国？』



各国の駐日大使館や関係機関を訪問して、  
様々な国の本当の姿をお届けします。

今回ご紹介する国は  
「カタール」

## 積極的な非資源産業の育成

## 3. 教育

1970年代からカタール政府は教育制度の拡充に着手し、莫大な資金を投入してきました。その結果、カタールの教育は初等教育から職業・技術訓練に至るまで、質・量ともに充実しています。公立校の教育費は、小学校から大学まで全て無料であり、私立校に対しても教材や医療サービス、公共料金の無償提供を行っています。近年、カタール政府は国内の教育施設のさらなる拡充を図るとともに、自国を中東地域における教育のハブとするため、欧米の大学や大学院を積極的に誘致しています。

2003年には教育都市(Education City)が設置され、米カーネギーメロン大学、米ジョージタウン大学などの有名大学が進出しています。



## 4. 観光・スポーツ

近年、カタール政府は観光事業の振興に力を入れており、国際会議やスポーツイベントの積極的な誘致、ホテルや新空港の建設などが進められています。2006年12月にはドーハで一大スポーツイベントである「アジア大会」が開催され、アジア各国から多くの人々がカタールを訪れました。また、2016年の夏季オリンピック開催地にドーハが立候補しており、東京やシカゴなど今回立候補した7都市の中から2009年10月に最終候補地が決定する予定です。

ドーハでの開催が決まれば、中東地域で初のオリンピック開催となります。



出所： Qatar Year Book 2006、毎日デイリーニュース、(財)中東協力センター

## 訪問を終えて

カタールの国民1人当たりのGDPは既に日本を抜き、2006年には6万2,914ドルに達しています。これは世界トップクラスの水準です。さらに、可採年数約200年という豊富な天然資源を持つカタールは、政府主導で今後も持続的な成長を続ける可能性が高く、また新たな産業基盤作りなど投資機会も豊富に存在することから、投資対象としては非常に魅力的な国の一つであると感じました。  
(これらの情報は全て2007年12月26日現在の情報です)

取材・編集： スパークス・アセット・マネジメント(株) 事業開発部 投信グループ



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。